

[活動報告]

技術と社会部門・交通物流部門 第5回合同見学会報告

「交通物流」と「技術と社会」部門交流のコマツテクノセンター見学会

2012年3月9日(金)

参加メンバーは、前回等とは異なり、交通・物流部門からは、末松氏(89期部門長)、松岡氏(87期部門長)、四之宮氏(89期 幹事)、小松氏、滝田氏、筒井氏、横井氏、大川氏、技術と社会部門からは、緒方氏(89期部門長)、小野寺氏(87期部門長)、奥村の11名と初回の87期から前回迄の様に部門の運営委員だけでなく、それ以外の参加者も含まれる形での開催となった。



機械遺産に 認定の日本最古のブルドーザーが、迎えてくれました。



ガラス越しに見える建設機械のデモンストレーション会場が豪雨で水煙をあげている状態です。

先ずは、レクチャールームで、コマツとコマツテクノセンター紹介が有り、予想通り、建設機械のデモンストレーションは中止とのアナウンスにて、少々落胆。今迄の見学場所は、少なからずも乗車した事が有る物ばかりでしたが、今回の建設機械等は、主な使用場所は、海外の建設現場で有り、関係者でないと乗車する機会は、まずあり得ない物ばかりでしたので、尚更の落胆となりましたが、海外の採石現場で稼働している超大型ダンプには乗車体験が出来るとの事で、一安心。オペレーターの操作研修もコマツテクノセンターで、行われていて、意外にもプロオペレーターに省燃費の操作研修をしているとの事で、企業秘密と思われるログを知りたいと（奥村は本田技研工業の汎用部門経験者なので）言いそうになりましたが、なんとか堪えました。エンジンが大排気量なので、燃費のコストは重要ファクターなのでしょうね。見学と操作研修は、海外の企業の方が多いたとの事でした。子供向けの見学会と企業向け、及び、機械学会向けの差別化に苦慮されている様に見受けられました。

大型ダンプの試乗は、豪雨の中、雨合羽と長靴を装着の上で、一人ずつの体験となりました。





操作系が軽い事をアピールする為との事で、女性オペレーターの運転での体験でしたが、確実に無駄の無い省燃費に徹しているオペレーションと感じました。企業の導入者に、アピールが、重要な観点からの配慮ですね。

待機エリアにあるデモンストレーション用の建設機械を見学しましたが、防塵キャビンでエアコンディショナー装備で、熱中症対策も万全との事で、オペレーターの快適さも重要視している事でした。やはり、この心遣いが欧米の建設機械メーカーに勝てる要素なのでしょう。

熱海で反省会となりましたが、話の接点が見つけれず、奥村は痴話ネタで終わってしまいました。前回迄の様に、自己紹介をしてからの見学とのスタイルの方が良い様に思います。

(株)ホンダアクセス 奥村 喜勝

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.27

(C)著作権:2012 社団法人 日本機械学会 技術と社会部門